News Release

FUJISOFT

2026 年 11 月 24 日
富士ソフト株式会社
New Relic 株式会社

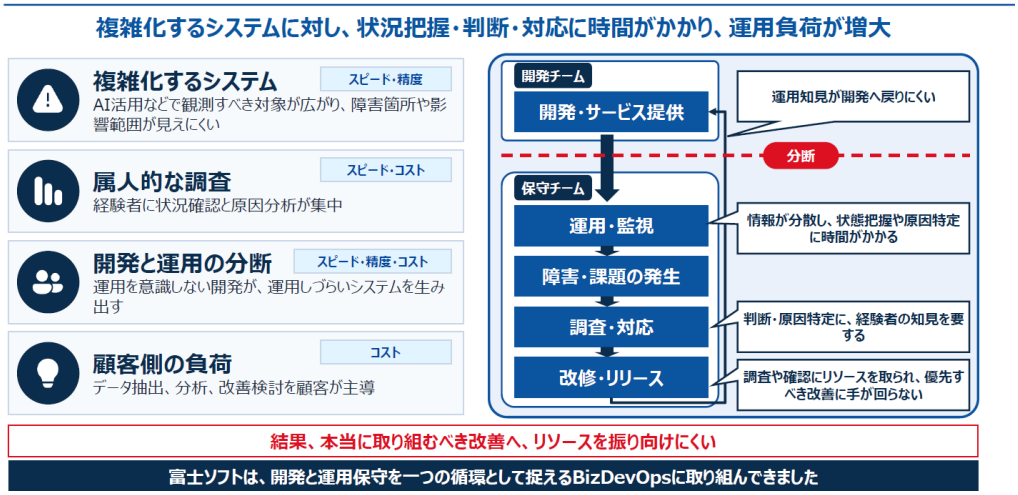
富士ソフト、New Relic と協業し、「見える化にとどまらず、先手を打つ」アプリケーション運用保守サービスを開始
国内パートナーとして初めて New Relic 認定プロフェッショナルサービスを提供

富士ソフト株式会社（代表取締役 社長執行役員 兼 CEO：室岡 光浩）は、デジタルビジネス向けにオブザーバビリティ（可観測性）※1 プラットフォームを提供する New Relic 株式会社（執行役員社長：古舘 正清、以下「New Relic」）と協業し、New Relic を活用したアプリケーション運用保守サービスの提供を開始します。あわせて、New Relic 認定プロフェッショナルサービスの提供を開始し、同サービスを提供する国内初のパートナーとなります。
本サービスでは、New Relic によるシステム状態の観測・分析と、富士ソフトが培ってきた開発・運用保守・アプリケーション改修の知見を組み合わせます。障害の兆候把握から原因特定、復旧、再発防止、改善・改修までを一気通貫で支援することにより、運用保守をシステム維持のための「守りのコスト」から、ビジネスの安定と成長を加速する「攻めの基盤」へ進化させます。

複雑化するシステムに対し、運用保守の負荷が増大

企業システムは、クラウドやマイクロサービス、外部 API、AI などの活用により複雑化し、障害の原因や業務への影響範囲を短時間で把握することが難しくなっています。また、インフラ、アプリケーション、ログ、利用者からの問い合わせなどの情報が、複数のツールや組織、ベンダーに分散し、調査が長期化したり、判断が特定の担当者に集中するケースもあります。現代のシステム運用には、障害発生後の復旧だけでなく、問題の兆候を早期に捉えて障害発生のリスクを低減し、同じ問題を繰り返さないよう改善を続けることが求められます。
富士ソフトは、企画・開発から運用保守、改修までを一つの循環として支援し、運用で得た知見を次の企画・開発へ還元する「BizDevOps」に取り組んできました。一方、監視対象や指標の設計、システムの変化や異常の判断、原因の特定には、依然として担当者の経験や多くの時間を要するため、立ち上がりのスピードや判断精度、運用負荷の面に課題が残っていました。

なぜ今、運用保守の変革が必要なのか



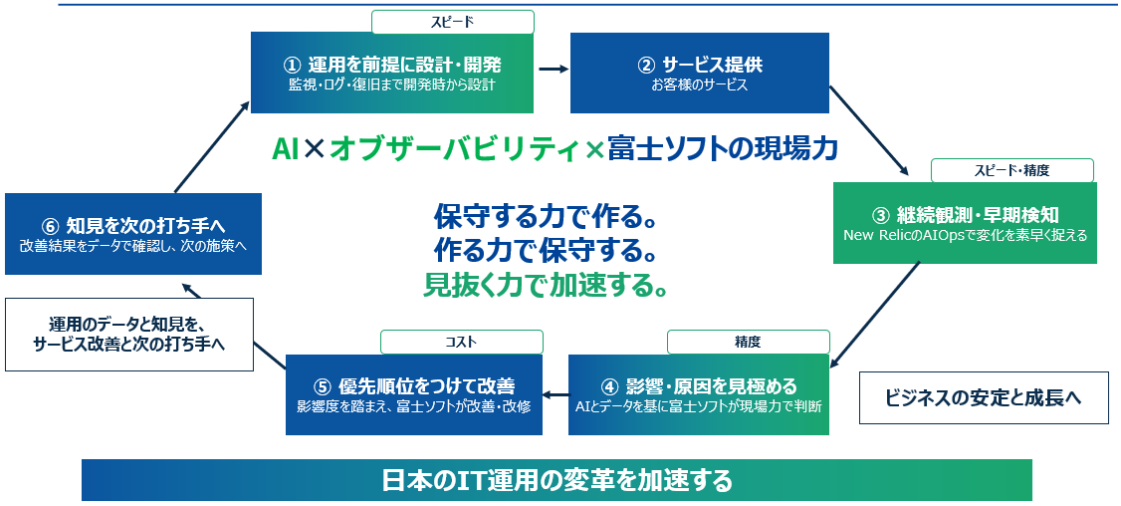
「何が起きているか」を「次に何を変えるか」につなげる

両社は、New Relic がシステムの状態を捉え、富士ソフトがそのデータを改善・改修につなげることで、障害の検知から再発防止までを一気通貫で支援します。

New Relic は、アプリケーション、インフラ、ログ、ユーザー体験、AI ワークロードなどのデータを一つの基盤で収集・可視化・分析できるプラットフォームを提供します。また、製品技術や共同提案、人材育成の面から本協業を支えます。

富士ソフトは、お客様のシステムと運用状況を踏まえ、監視対象や異常の判断基準、通知先、業務フローへのつなぎ方といった実際の運用を設計、New Relic の導入から定着化、運用保守、改善提案、アプリケーション改修までを担います。富士ソフトは年間約 3,000 件※2 の運用保守案件に対応しており、そこで培った現場力と開発・改修の技術力を本サービスに活かします。

協業が描く姿｜New Relicで、BizDevOpsをさらに加速する



導入・活用・改善から、アプリケーションの運用保守まで支援

富士ソフトは New Relic 認定プロフェッショナルサービスとして、お客様の New Relic の導入・活用状況に応じた 3 つのメニューで提供します。

- 「導入支援」：これから New Relic を導入するお客様向けに、現状調査から初期設定、基本的な監視、管理者教育までを行います。
- 「活用高度化」：New Relic を十分に活用できていないお客様に対し、KPI、ダッシュボード、アラートなどを見直します。アプリケーション性能やユーザー体験まで観測対象を広げ、システムの状態とビジネスへの影響を判断できる運用へ高度化します。
- 「運用・改善支援」：運用で蓄積されたデータを分析し、監視設定や運用プロセスの改善、アプリケーションの改修までを支援します。さらに、蓄積したデータを将来的な AI 活用につなげ、調査や判断の支援、運用効率化を進めるとともに、より自律的な運用を目指します。

また、New Relic を活用したアプリケーション運用保守サービスでは、EC・デジタルサービス、製造業・スマート工場、業

務アプリケーションなどへの適用を想定しています。例えば、EC では決済や検索、外部 API の遅延がユーザーに与える影響を把握します。製造業では、設備、アプリケーション、クラウド、連携基盤を横断して、停止や処理遅延の原因を特定します。業務アプリケーションでは、応答時間やエラー、利用コストなどを分析し、安定運用を支援します。導入時には、重要なサービスやシステムを絞り、スモールスタートで効果を確認しながら対象範囲を広げます。
富士ソフトグループの株式会社モバオクでも、New Relic の活用を進めています。富士ソフトの専任チームが導入・設定・教育を担い、運用チームが日常業務で活用する体制を構築しています。システム状態の把握や原因調査、復旧にかかる時間を短縮し、開発・改善により注力できる運用を目指します。

運用データを起点に、継続的な改善を生み出すサービスへ

両社は、運用保守を、投入する人員や時間を中心とした人月型のサービスから、運用データをもとに継続的な改善を生み出すサービスへ進化させることを目指します。その実現に向けて、富士ソフトは、New Relic に関する認定資格を持つ人材を今後 5 年間で 200 名育成することを目指します。また、共同提案や初期案件で得た知見をもとに、設計・導入・運用の手順を標準化し、運用変革を他のお客様にも展開できる、再現可能なモデルとして確立します。
今後は、対象となる業種やシステムを段階的に広げるとともに、AI を活用した調査・判断支援や運用の自動化、アプリケーション開発の高度化にも取り組み、日本企業の IT 運用変革を支援してまいります。

New Relic 株式会社 執行役員社長 古舘 正清のコメント

「優れたテクノロジーを日本企業の現場に根付かせるには、お客様のシステムと運用を熟知したパートナーの力が欠かせません。国内初となるパートナーによるプロフェッショナルサービスを、豊富な運用保守の実績を持つ富士ソフト様とともに提供できることを大変うれしく思います。見える化にとどまらず、先手を打つ新しい運用を通じて、日本の IT 運用の変革と国内オブザーバビリティ市場の成長を実現してまいります。」

富士ソフト株式会社 取締役 専務執行役員 兼 Co-COO 大迫 館行のコメント

「今回の協業を通じて、お客様の運用を、システムを『止めない』ための活動から、サービスや事業を成長させるための『先手を打つ』活動へと変えていきたいと考えています。New Relic の可観測性と AI、そして富士ソフトの運用保守の現場力を組み合わせ、見える化した情報を確実な判断と行動へつなげます。お客様の現場に入り、運用とアプリケーションの改善を続けながら、具体的な成果を積み重ねてまいります。」

※1 オブザーバビリティ（可観測性）：アプリケーション、インフラ、ログ、ユーザー体験などのデータを収集・分析し、システムの状態とその原因を把握できるようにすること
※2 2025 年に富士ソフトが対応した運用保守案件数

関連情報

富士ソフト BizDevOps ソリューション

https://www.fsi.co.jp/BizDevOps/index.html

New Relic 株式会社について

URL：https://newrelic.com/jp

2008 年に創業した New Relic は、業界におけるリーダーとして、デジタルビジネスのあらゆる重要指標を観測可能にする「オブザーバビリティ（可観測性）プラットフォーム」を提供しています。デジタルビジネスを構成するアプリケーションやインフラストラクチャだけでなく、ユーザー側の顧客体験状況までをも観測可能にするため、企業はデジタルサービスの障害検知、顧客体験の低下検知、潜在的な問題やボトルネックを早期特定し解決する DevOps チームを生み出します。これにより、企業は取り組むべきデジタル変革を、計測可能な戦略へと変化させることができます。New Relic の全世界顧客数は 16,000 以上、Fortune 100 企業の過半数で採用されており、日本でも数百社を超えるお客様のデジタル変革を支援しています。

富士ソフト株式会社について

事業内容：コンサルティング、開発、システム構築、サポートまでのトータルソリューション

URL：https://www.fsi.co.jp/

富士ソフトは、個のエンジニアリング力と高度な組織力を結集し、AI・IT・OT の融合によりお客様の未来を創造するデジタルイノベーションカンパニーです。1970 年の創業以来、組込・制御技術と各産業に最適化されたソリューションで実績を築き、組込／制御分野では自動車やロボットなどの先端領域、ソリューション分野では業務系開発や官公庁・電力など社会インフラを支えてきました。2026 年より新理念「社会の発展とお客様の価値創出に寄り添う、かけがえのない存在であり続ける」を掲げ、「組込／制御」「社会インフラ」「ソリューション」事業における先進技術と組織力を強みに、多様なオファリングを展開。経営変革の伴走パートナーとして、常にイノベーションに挑戦しながら、お客様と共に未来を創造し続けます。

【富士ソフト公式メディア】

FUJISOFT Tech Tips：https://www.fsi.co.jp/techtips/

FUJISOFT Technical Report：https://www.fsi.co.jp/blog/

【公式 SNS】

LinkedIn：https://jp.linkedin.com/company/fujisoft-incorporated

Facebook：https://www.facebook.com/FUJISOFT.japan

X：https://x.com/FSI_official_X

お問い合わせ先

ニュースリリースについて

富士ソフト株式会社

コーポレートコミュニケーション部 広報窓口

TEL：050-3000-2735
E-MAIL：mkoho@fsi.co.jp

New Relic 株式会社
マーケティング部　広報担当：佐藤
E-MAIL：japan_pr@newrelic.com

製品・サービスについて
富士ソフト株式会社
ソリューションビジネスユニット システムインテグレーション事業本部 ビジネスソリューション事業部
E-MAIL：fsi-newrelic@fsi.co.jp

※ 記載されている会社名および商品名は、各社の登録商標または商標です。